

# ゼロカーボン北海道関連運輸局の取組について

北海道運輸局  
令和8年1月19日

# 脱炭素社会の実現に向けた自動車分野のGXの推進

- トラック・バス等商用車の電動化技術、水素や合成燃料をはじめとするカーボンニュートラル燃料の実用化へ向けた開発促進を強化する。
- 再エネ導入とグリーン電力について、自動車分野における活用を推進する。

(関連事項) 商用車等の電動化促進事業

【エネルギー対策特別会計（環境省）】

## 目 的

※30,000百万円[R7補正] (3年間で総額 6,000百万円の国庫債務負担)

- ・ 2050年カーボンニュートラルの達成に向け、商用車等の電動化は必要不可欠である。
- ・ このため、商用車等の電動化(BEV、PHEV、FCV等)を支援し、普及初期の導入加速を図る。

## 内 容

- ・ 商用の電動車等及び当該車両に必要となる充電設備等の導入に対し補助を行う。

【トラック】補助率:標準的燃費水準車両との差額の2/3 等 【バス】補助率:標準的燃費水準車両との差額の2/3 等

補助対象  
車両の例



EVトラック/バン



FCVトラック

補助対象  
車両の例



EVバス



FCVバス

【タクシー】補助率:車両本体価格の1/4 等

補助対象  
車両の例



EVタクシー



PHEVタクシー



FCVタクシー

【充電設備等】補助率:1/2 等

補助対象  
設備の例



充電設備

※GX建機も補助対象

※本事業において、車両等と一体的に導入するものに限る



EVバス、グリロ



自動運転バス

## 【実証中】

当別町 自動運転バス  
実証期間：2025年10月1日～2026年1月31日  
実証協力：マクニカ  
使用車両：EV02（Lv2）※一部区間はLv4  
補助金等：R7自動運転補助金



## 【実証済】

小樽市 自動運転バス  
実証期間：2025年8月18日～2025年8月31日  
実証協力：マクニカ  
使用車両：EVO（Lv2）



## 【実証済】

札幌市 自動運転バス  
実証期間：2025年10月21日～11月3日  
実証協力：BOLDLY  
使用車両：AuveTech MiCa（Lv2）  
補助金等：R7自動運転補助金

## 【実走中】

北広島市 EVバス  
運行開始：2023年3月  
北海道バス（株）

## 【実証中】

奥尻町 グリーン  
スローモビリティ  
実証期間：2025年12月～  
2026年1月  
共創モデル実証運行事業

## 【実走中】

登別市 グリーンスローモビリティ  
運行開始：2023年3月  
（一社）登別国際観光コンベンション協会

## 【実証中】

上士幌町 自動運転バス、タクシー  
実証期間：2025年10月3日～10月23日（タクシー）  
2026年1月5日～2月28日（バス）  
実証協力：WeRide Inc、ムービーズ  
使用車両：Robobus（Lv2）、アルファード（Lv2）  
補助金等：R7自動運転補助金



## 【実証中】

帯広市 自動運転バス  
実証期間：2025年12月27日～2026年2月28日  
実証協力：BOLDLY  
使用車両：AuveTech MiCa（Lv2）



## 【実証中】

更別村 自動運転バス  
実証期間：2024年9月10日～  
実証協力：日本モビリティ  
使用車両：トヨタ・ハイエース（Lv2）



## 【実証中】

千歳市 自動運転バス  
実証期間：2025年11月4日～2026年1月19日  
実証協力：アイサンテクノロジー  
使用車両：いすゞ・ERGA（Lv2）  
補助金等：R7自動運転補助金





# グリーンスローモビリティの導入と活用

- 奥尻町は令和4年12月6日に、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ達成を目指す「奥尻町ゼロカーボンシティ」を宣言、脱炭素化の推進及び、住民・観光客の移動手段としてグリーンスローモビリティ※（以下グリスロ）の導入を検討
- 北海道運輸局は「共創モデル実証運行事業」を活用し、グリスロの導入・運行について支援

※グリーンスローモビリティ：①時速20km未満で公道を走ることができる②電動車を活用した③小さな移動サービス

## 共創事業概要

- ・グリスロを導入し、奥尻市街地の町役場、病院、買い物施設等の主要拠点をカバーするエリア運行を実施
- ・奥尻町を訪れる観光客に向けて、グリスロを活用した観光プランを創設、乗務員による観光ガイドを行うことで、グリスロ乗車体験を奥尻町の観光コンテンツ化



グリーンスローモビリティ

**グリスロ走ります！**  
(国保病院－奥尻市街地間)

奥尻町コミュニティ創出と地域活力創造プロジェクト

2025年 2026年  
【期間】 12/8(月)～1/30(日)  
【運行日】 毎週 月・水・金曜日のみ運行  
【時間】 午前9時から正午まで

**乗車無料**

**ご利用の流れ**  
(1) 下記の問い合わせ先に電話で利用を申し込む。  
(2) グリスロが到着後、奥尻市街地へ出発。  
(3) 利用後は病院への往復、または最寄りのバス停等へ送迎します。

**ご利用の際はアンケートのご協力をお願いします！**  
△注意事項  
・1度の運行につき、定員5名です。  
・悪天候や路面の悪条件によって運行を中止する場合があります。  
・運行中止の場合は、当日病院に掲示してお知らせします。

グリスローエリア運行チラシ

**グリスロで観光ガイドがご案内します！**  
**グリスロ(電気自動車)が奥尻島にやってきました！**  
**乗車無料！**  
前日までの予約制(定員6名まで)

**設定日**  
9月6日(土)・7日(日)・13日(土)・14日(日)・15日(月)・20日(土)・21日(日)  
22日(月)・23日(火)・27日(土)・28日(日)

**行程(奥尻北線コース)**  
奥尻港フェリーターミナル前9:00発  
なべつる岩  
うにまる公園  
球島山展望台  
宮津岬天宮  
奥尻港フェリーターミナル11:50着

**行程(日帰リコース)**  
奥尻港フェリーターミナル前13:15発  
なべつる岩  
うにまる公園  
奥尻港フェリーターミナル14:25着

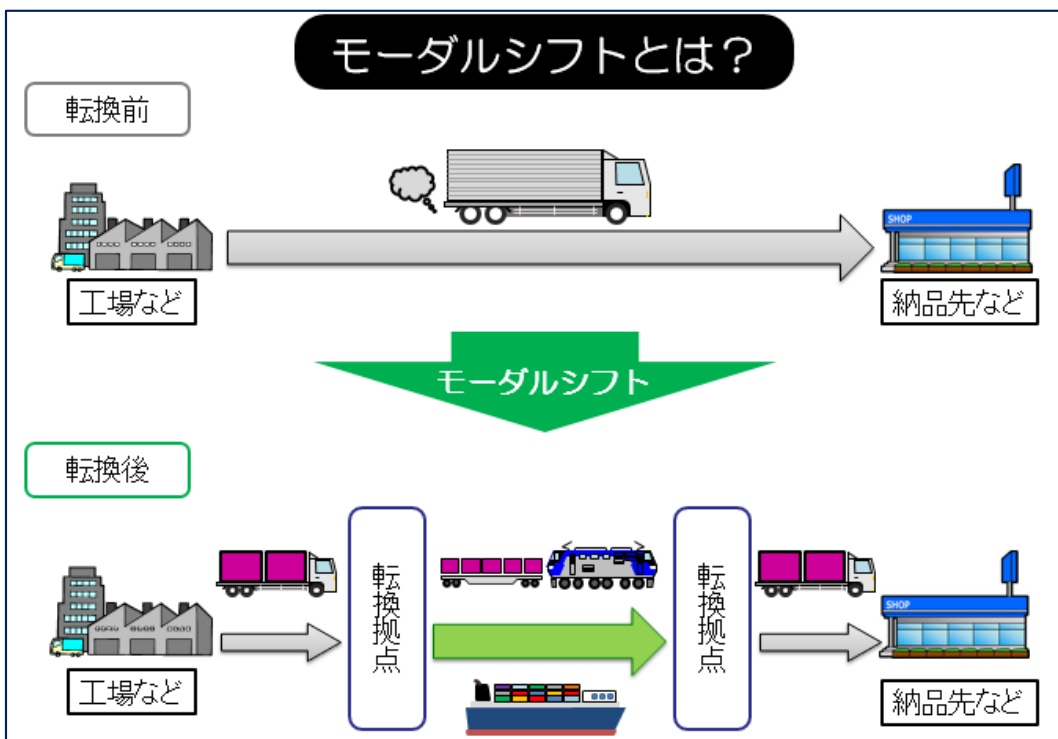
**予約・お問合せ**  
奥尻観光ガイドサービス  
担当 井口  
TEL 096-1552-9589

**奥尻町コミュニティ創出と地域活力創造プロジェクト事業**

グリスロ観光ガイドチラシ

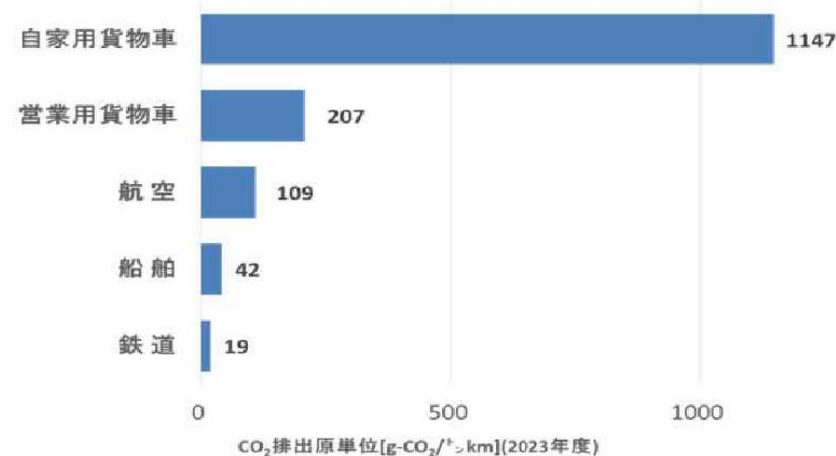
# モーダルシフトについて

- モーダルシフトとは、トラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換することをいいます。
- 1トンの貨物を1km運ぶ(=1トンキロ)ときに排出されるCO<sub>2</sub>の量をみると、トラック(営業用貨物車)が207gであるのに対し、鉄道は19g(約1/11)、船舶は42g(約1/5)しかありません(2023年度試算。)。貨物輸送の方法を転換することで、鉄道利用では約91%、船舶利用なら約80%もCO<sub>2</sub>排出量を削減することができます。



国土交通省HPから転載

輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(貨物)



国土交通省HPから転載

# モーダルシフト促進に向けた取組

## 北海道着貨物の鉄道モーダルシフト

- 長距離かつ大量輸送機関である「船舶」と「鉄道」の結節により、海上輸送と陸上輸送をシームレスにつなぎ、「Ship&Train」によるモーダルシフトの実現可能性を検討
- 国土交通省「地域連携モーダルシフト等促進事業」により支援

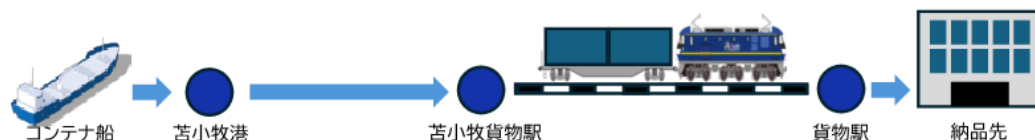
### ●北海道苫小牧海陸一環モーダルシフト推進協議会(仮称)

構成員: 苫小牧埠頭株式会社、日本貨物鉄道株式会社 北海道支社、苫小牧港管理組合

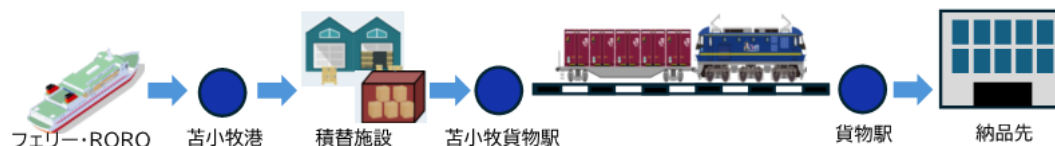
オブザーバー: 北海商科大学

#### <船舶から鉄道へのオペレーション概要>

- 苫小牧港に陸揚げされた20ft海上コンテナを苫小牧貨物駅へ運び、貨物列車に載せ替えて目的駅まで輸送し、最終納品先へ輸送



- 苫小牧港に陸揚げされたトレーラーシャーシ貨物を12ftコンテナに積み替え、苫小牧貨物駅で貨物列車に積載して目的駅まで輸送し、の後、最終納品先へ輸送



#### <想定される効果及び目標>

- 長距離かつ大量輸送に適した「船舶」と「鉄道」を結節させ、海上輸送と陸上輸送をシームレスに接続することで、「Ship&Train」によるモーダルシフトを実現し、道内輸送におけるトラック輸送距離の短縮やドライバーの拘束時間の削減を想定
- OKPIは環境、労働の観点から、フェリー・RORO貨物とコンテナ貨物それぞれに下表の目標を立てて取り組む

#### <20ftコンテナを鉄道輸送した際の1回当たりの効果>

CO2排出量	0.236(t-CO2)/回
ドライバーの運転削減時間	平均440分/回

#### <フェリー・RORO船貨物を鉄道輸送した際の1回当たりの効果>

CO2排出量	0.258(t-CO2)/回
ドライバーの運転削減時間	平均465分/回

## LNG燃料フェリーの導入

2025年に新造船「さんふらわあ かむい」と「さんふらわあ ぴりか」(LNG燃料フェリー)が苫小牧～大洗航路に就航。

### 新造船概要

- ・全長/全幅: 199.4m/28.6m
- ・総トン数: 15,512G/T

### 導入効果

- ・CO2、NOX(窒素酸化物)排出量約35%削減

2025年1月～大洗 苫小牧 航路 深夜便

# 新造船就航

2025年1月 就航予定  
さんふらわあ かむい

2025年春 就航予定  
さんふらわあ ぴりか

最新鋭の  
LNG燃料フェリー

相部屋だった  
ドライバーズルームは  
完全個室化

LNG燃料で  
環境にやさしい  
輸送を実現

CO2排出量  
約35%削減  
他、温室効果ガスの  
排出を大幅に削減

首都圏と北海道を約18時間で結ぶ海上の最短ルートに  
「新生さんふらわあ」がまもなく誕生。  
モーダルシフトを促進し、2024年問題の解決に貢献します。



冬季の省エネルギーの取組 【令和7年10月31日省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議決定】

- 2025年2月18日閣議決定された「第7次エネルギー基本計画」では、徹底した省エネルギーの重要性を認識
- 2024年6月のG7首脳会合、COP28で初めて行われたグローバル・ストックテイク等国際的な場においても省エネルギーの重要性を再認識
- 更なる省エネルギーのため、産業界や政府、国民が徹底した省エネルギーの取組推進が必要
- 以上のことを踏まえ決定した「令和7年度冬季の省エネルギーの取組」において、政府としての取組の中に挙げられている省エネルギーの普及啓発等として、各府省庁がそれぞれ具体的な活動を実施することとしている。  
運輸事業者のグリーン経営（環境負荷の少ない事業経営）推進のための「グリーン経営推進マニュアル」（自動車、海事及び倉庫関係事業者向け）の配布、講習会の開催等を行う。

グリーン経営認証とは

- 環境保全を目的にした取り組みを行っている物流事業者（トラック、バス、タクシー、旅客船、内航海運、港湾運送、倉庫）に対する認証制度。
- 当局では公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団（以下、エコモ財団）と連携し、グリーン経営認証取得講習会を実施し、グリーン経営の普及・啓発活動を行っている。
- 令和7年度は、当運輸局主催にて11月14日午前倉庫及び海事事業者対象、午後自動車運送事業対象として、講師にエコモ財団職員を招き、web形式（Microsoft teams）でグリーン経営認証取得講習会を開催した。

グリーン経営のメリット

- ・燃費の向上、CO2排出原単位の低減
- ・社会的評価向上
- ・交通事故、車両故障の削減
- ・職場モラルの向上、職場士気の向上
- ・リーダー層の人材育成
- ・低金利融資等

北海道内認証数

トラック事業者	149事業所
バス事業者	7事業所
内航海運事業者	3事業所
港湾運送事業者	1事業所
倉庫業者	17事業所
(2025年11月28日現在)	

認証ロゴマーク



# サステナビリティ向上に資する旅行形態 ～アドベンチャートラベル～

## Adventure Travel (AT) とは

- ・ 自然のなかでのアクティビティや異文化体験を通じて、地域の人々と双方向で触れ合い、楽しみながらその土地の自然と文化をより深く知ることによって自分の内面が変わっていくような旅行形態。



## ATWS2023 サステナビリティ評価

ATの5つの体験価値の1つ「Low Impact」(環境への負荷低減)が提唱されている。アドベンチャートラベル・ワールドサミットでは、開催地のサステナビリティについて評価している。

### Hokkaido's Sustainability Efforts (5点満点)



## 「来訪者が環境保全に貢献する仕組み」の構築に向けた検証事業

### 事業目的 持続可能な自然環境の保護と利用の両立

○日本最大面積を誇る「日高山脈襟裳十勝国立公園」周辺エリアにおいて、「守るべき自然」を域内外の方に見て感じてもらえる環境の整備するとともに、来訪者の訪問が自然環境の保全に貢献する仕組みの構築を目指す

○世界的な旅行ニーズを捉え、歩きながら自然、歴史、文化に触れる旅を提供できる「ロングトレイル」を軸に、環境の整備を検討する

### 概要

実施期間：令和7年7月～令和8年3月

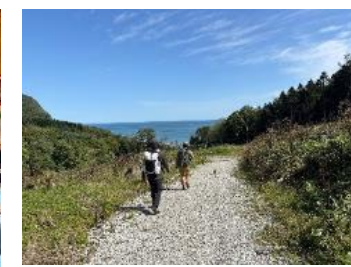
- ①先進地事例調査  
国内外の先進事例の調査（文献調査、視察）を実施
- ②路線基礎調査  
既存の経路の洗い出しや実地踏査によりどのような路線が設定できるか検証を実施
- ③地域の機運醸成  
「ロングトレイル」が自然や暮らしにもたらす恩恵を地域住民に伝える講演やワークショップを実施
- ④運営体制の検討  
「ロングトレイル」を軸としたマーケティング、収益化の手法、収益の分配方法等、JSTS-Dを踏まえた望ましい運営のあり方について検討会を実施
- ⑤来訪者が自然環境保全に貢献する手法の実証  
ハイカーが自然保護活動に参加するプログラムや、ハイカーの消費が自然保護活動に還元される仕組みを盛り込んだ体験を提供するとともに、意識調査を実施し、来訪者が自然環境保全に貢献する手法の実証を実施



先進地視察



セミナー開催



歩行調査